

SPring-8 運転・利用状況

公益財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成24年4～6月の運転・利用実績

SPring-8は4月1日から4月28日までセベラルバンチ運転で第1サイクルの運転を行い、5月6日から6月2日までセベラルバンチ運転で第2サイクルの運転を実施した。第1～2サイクルでは原因不明の軌道変動によるアポルト等による停止があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は、第1サイクルは約0.9%、第2サイクルは0.9%であった。

放射光利用実績（いずれも暫定値）については、実施された共同利用研究の実験数は、第1サイクルは合計212件、利用研究者は1,121名で、専用施設利用研究の実験数は合計253件、利用研究者は638名であった。第2サイクルは合計263件、利用研究者は1,393名で、専用施設利用研究の実験数は合計234件、利用研究者は688名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第1サイクル（4/1（日）～4/28（土））

第2サイクル（5/6（日）～6/2（土））

(2) 運転時間の内訳

第1サイクル

運転時間総計 約647時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約72時間

②放射光利用運転時間 約570時間

③故障等によるdown time 約5時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）

に対するdown timeの割合 約0.9%

第2サイクル

運転時間総計 約647時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約72時間

②放射光利用運転時間 約570時間

③故障等によるdown time 約5時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）

に対するdown timeの割合 約0.9%

(3) 運転スペック等

第1サイクル（セベラルバンチ運転）

・11 bunch train × 29

・1/7 filling + 5 bunches

・203 bunches

第2サイクル（セベラルバンチ運転）

・11 bunch train × 29

・1/7 filling + 5 bunches

・入射は電流値優先モード（2～3分毎（マルチバンチ時）もしくは20～40秒毎（セベラルバンチ時））のTop-Upモードで実施。

・蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主なdown timeの原因

・原因不明の軌道変動によるアポルト

・RF BPMによるアポルト

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第1サイクル（4/3（火）～4/28（土））

第2サイクル（5/7（月）～6/2（土））

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 26本

専用ビームライン 17本

理研ビームライン 9本

加速器診断ビームライン 2本

第1サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数 212件

共同利用研究者数 1,121名

専用施設利用研究実験数 253件

専用施設利用研究者数 638名

第2サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数 263件

共同利用研究者数 1,393名

専用施設利用研究実験数 234件

専用施設利用研究者数 688名

◎平成24年6～7月の運転・利用実績

SPring-8は6月4日から7月18日までセベラルバンチ運転で第3サイクルの運転を実施している。第3サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

◎今後の予定

7月19日から9月23日まで夏期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行う予定である。